

## ご あ い さ つ

高知女子大学看護学会

会長 松 本 女 里

高知女子大学看護学会は、発足以来、内容を充実させながら卒業生の間に定着し、学会誌も第30巻第2号を発行する運びとなりました。このことは母校を核とする卒業生の皆様のお力添えがあってこそ考えます。

学会会則に「この学会は看護学の進歩発展と会員相互の研鑽・親睦を計りもって看護の向上に資することを目的とする」とありますように、学会運営もこの目的にそって行なわれてきました。

学会の事業として、これまで学会の開催はもとより、昭和57年（1982）には看護学科創設30周年を記念して、一般市民向けの公開講座を開催しました。平成3年（1991）からは看護職の方々を対象に公開講座を開催し、今日まで継続しております。また、昭和63年（1988）には学会員の研究活動を支援するために研究助成事業を立ち上げ、平成10年（1998）には修士課程の発足に合わせ、院生への奨学金制度を開始しております。

学会活動においても、卒業生の研鑽と同時に地域の看護職者との連携を深め、看護の視点を持って、地域社会に関わっていくよう努力し、常に高知女子大学看護学部の発展に寄与できるようにと考えて取り組んできました。

大学は今、法人化、統合化へと改革が進み、高知女子大学においても改革と新しい大学像が求められております。こうした中で、高知女子大学看護学会は母校を拠点とする学会であるからこそ、大学の発展をともに考えてゆかねばなりません。

現在、わが国では看護系の学会はその数、内容ともに充実・発展し、看護専門領域別にそれぞれの学会を持ち、会員数も年々増加しております。卒業生の皆様もその多くが、いずれかの学会に所属し、学会員として活躍・研鑽をしておられることと思います。

高知女子大学看護学会も、30年にわたる会員相互の取り組みとその中で培ってきた貴重な成果を基盤に、これから将来に向けて、今後どのような取り組みや活動をし、どのように発展してゆけばよいのかを皆様とともに考えてゆくべき時期にきていると考えます。

激しい社会の動きの中でこれらのニーズに答え、母校をバックアップするためにも高知女子大学看護学会が今後担っていく役割は大きいと考えます。

このような重要な時期に、学会長としての役割をお引き受けし、身が引き締まる思いでありますと同時に、学会員の皆様とご一緒に充実した魅力ある学会となるように取り組んでいけることを喜びと感じております。皆様の一層のお力添え、御協力をよろしくお願い致します。